

思春期の子どもを対象とした定期健診継続と歯肉炎予防のための健康教育媒体の開発とその評価

○柏木伸一郎¹⁾、松岡奈保子¹⁾、西本美恵子¹⁾、岩男好恵¹⁾、岩井 梢¹⁾、筒井昭仁^{1,2)}

¹⁾NPO 法人ウェルビーイング、²⁾福岡歯科大学口腔保健学講座

要約：思春期を対象とした定期健診継続と歯肉炎予防を目的に、健康教育ツールを開発した。来院者と医院スタッフ双方に質問紙調査を実施したところ、歯肉炎を理解し歯肉炎予防や定期健診継続の意欲の高まりが感じられた。また、使いやすく説明しやすい健康教育ツールであることが明らかとなった。（索引用語：思春期の定期健診、歯肉炎予防、健康教育ツール）

口腔衛生会誌 60 (4), 2010

目的：

思春期を迎えると定期健診を中断するケースが増加する。また、この時期は歯肉炎など新たな健康課題も出てくるため、歯肉炎予防の方法を伝えることも重要である。今回、思春期を対象とした定期健診継続と歯肉炎予防を目的に健康教育ツール「Make a Smile 思春期編（以下、MS 思春期編）」を開発し、その評価を行ったので報告する。

方法：

思春期の来院者 60 名（平均年齢 11.6 ± 2.3 歳）に「MS 思春期編」を用いて健康教育を行い、歯肉炎の理解、定期健診継続の意志、感想を自記式質問紙で調査した。健康教育を行った医院スタッフ 12 名（歯科医師 2 名、歯科衛生士 8 名、受付 2 名）に来院者たちの反応、ツールの使い心地を自記式質問紙で調査した。質的データは、切片化後、コード化を行った。以下、コードは“ ”、記述は『 』で示す。

結果および考察：

来院者は、歯肉炎が理解「できた」者は 83.3%、歯肉炎の予防はできるという質問に「とてもそう思う」者は 63.3%、自分の歯肉を鏡を見ながらチェック「できる」と答えた者は 95% と高い割合であった。歯肉の自己チェックの方法を学び自信をもったと考えられた。定期健診に関しては、これからも続けるかという問いに対して「とてもそう思う」と 75% の者が答えており、定期健診の動機づけになっていた。

自由記述では、“歯肉炎の症状・原因”や“歯肉炎の予防法”を学び、“歯肉炎は予防できること”や“自分の歯肉の状態”を知り、“歯肉炎は予防できるという確信”や“歯肉炎予防の

意欲”を高めていることが明らかとなった。また、嬉しかったこととして“自分の症状がわかったこと”があがっていた。

スタッフは、来院者から“質問が出る”ため“対話での理解の深まり”、来院者が主体的に参加できる内容だと考えていた。また、来院者が『真剣』に『集中』することから“手応えのある反応”が感じられ、来院者の“内容の理解”にもつながると考えられた。

使い心地としては『段階をふんでいるのでわかりやすかった』、流れがあるので『時間配分しやすい』、思春期の来院者に伝えたい歯肉炎と定期健診のポイントがまとめられ『時間の短縮』につながった、『言葉が自然と出てきた』という意見もあり、説明や対話が自然に起こるツールとなっていた。写真やイラスト中心のため、来院者は“写真イラストへの関心”を示しスタッフは『視覚で訴えることの効果を実感』を感じ、イラストや写真が対象者の興味を引き、理解を助けることが明らかとなった。

